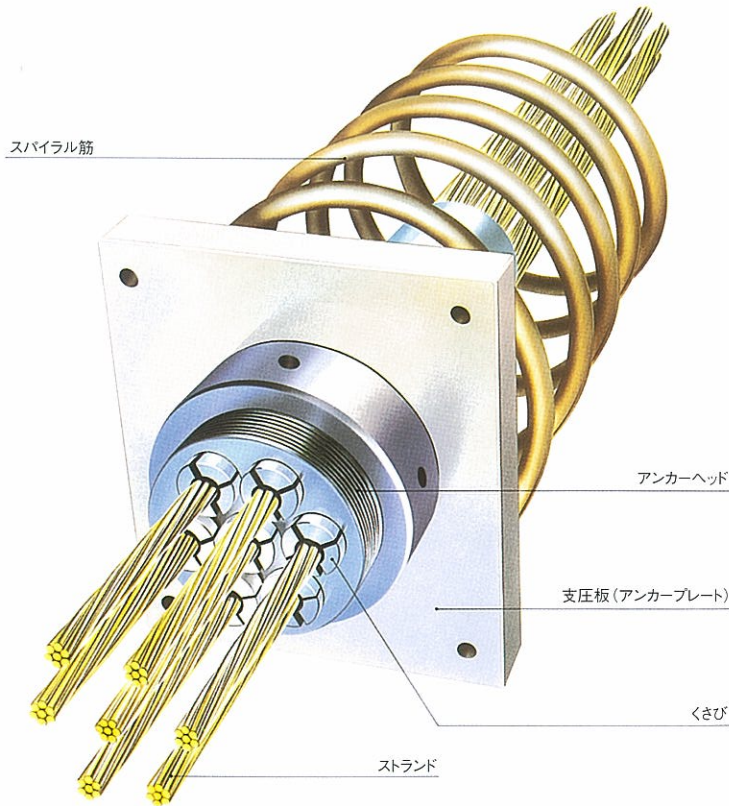


I.KTB定着工法

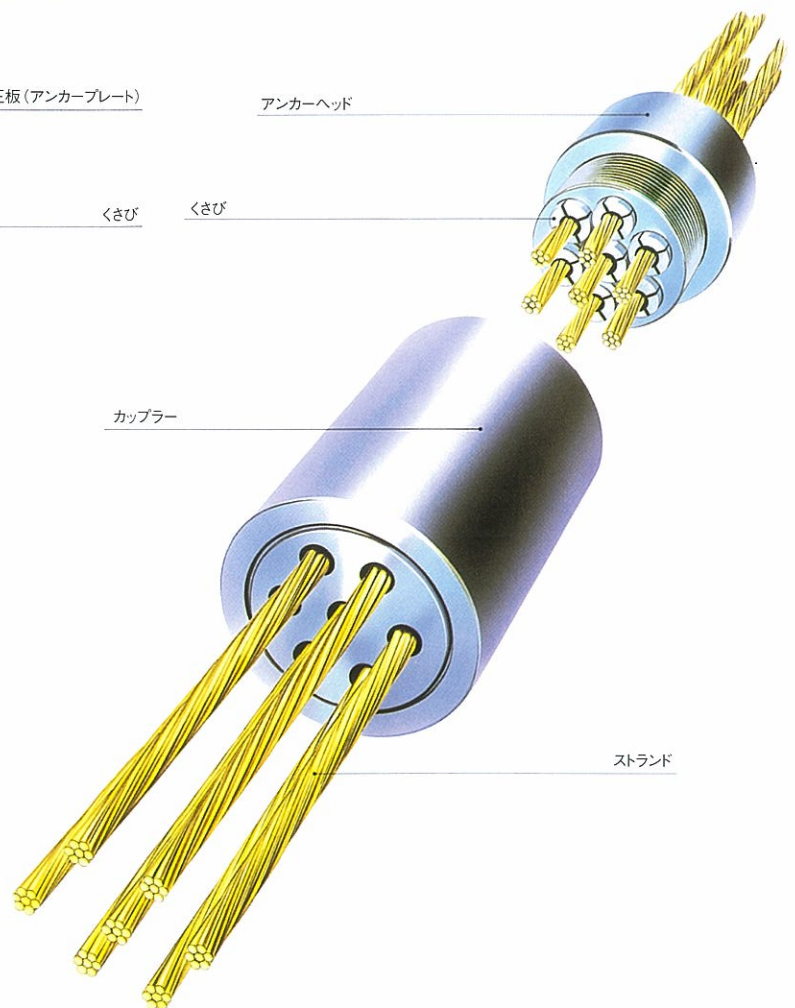
KTB定着工法は、プレストレストコンクリート(通常、PCという)における定着工法の一つです。その特長は、緊張材としてPC鋼より線(ストランド)を用いること、また、定着時のセットロスをなくすためにくさびとナットを併用して締付け効果を高めたところにあり、これまでの

定着技術を著しく発展させたものです。本定着工法は、昭和61年4月、(財)日本建築センターの評定(評定番号[BCJ-P定着5])を取得し、以後、長大スパンの構造物や人工地盤等の建築工事、橋梁やグラウンドアンカー等の土木工事の基礎技術として広く活用されています。



接続具(カップラー)

一方を定着具に接続し、もう一方にねじ付コーンを各ストランドごとにくさび定着、または圧着グリップによってねじ付コーンをナット方式で定着させることにより、第2期工事等においてストランドを自由に延長できます。



定着具

従来のくさび定着は、セット時に緊張力の損失を生じていました。しかし、KTB定着工法はくさび・ナット定着であるため、そのロスが解消され、再緊張が自由に行え、しかも現場内でストランドの長さ、本数が自由に調整できます。